

平成 29 年度 学科 AO 入試 総合考査 問題用紙【スポーツ国際学科】  
試験時間：90分

.....  
スポーツが地球規模で拡大することによって、実に様々な現象が生み出されている。以下に示す資料はそうした現象を示すものの一部である。そこでスポーツのグローバル化という視点に立って以下の問いに答えなさい。

- 問1. 資料 1 はオリンピックにおいて男子柔道種目が実施された大会、階級数、日本の獲得メダル数を示したものである。この資料に示されている獲得メダル数の推移を国際普及との関係から説明しなさい。
- 問2. 資料 2 にあるように、わが国は 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて Sport for Tomorrow プログラムを展開している。国際交流・国際協力という観点から、このプログラムが果たす役割を説明しなさい。

<資料 1>

オリンピック柔道競技・男子の大会ごとの獲得メダル数

開催年	開催都市	階級数	金	銀	銅	計
1964	東京	4	3	1		4
1968	メキシコ		×	×	×	×
1972	ミュンヘン	6	3		1	4
1976	モントリオール		3	1	1	5
1980	モスクワ	8	△	△	△	
1984	ロサンゼルス		4		1	5
1988	ソウル	7	1		3	4
1992	バルセロナ		2	1	2	5
1996	アトランタ		2	2		4
2000	シドニー		3	1		4
2004	アテネ		3	1		4
2008	北京		2			2
2012	ロンドン				2	2
2016	リオデジャネイロ	2	1	4	7	

×は競技が実施されなかった

△は大会に不参加

階級数は無差別を含む

出典：読売新聞、2016年8月14日朝刊を参考に作成

## Sport for Tomorrow プログラム

○コアメッセージ:スポーツが未来をつくる:2020年東京オリンピック・パラリンピック大会とそれに向けた具体的な行動を通じて、世界のより良い未来のために、未来を担う若者をはじめ、あらゆる世代の人々に、スポーツの価値とオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを広げていく。

2014~2020年の7年間で、開発途上国を始めとする100か国以上の国において、1,000万人以上を対象に、以下のプログラムを実施する。

### ① スポーツを通じた国際協力及び交流

→外務省

- スポーツ関連施設の整備、器材供与(一般/草の根文化無償資金協力)
  - スポーツ指導者・選手の派遣・招へい(JICAボランティア派遣、スポーツ外交推進事業)
  - スポーツ分野での技術協力(JICA技術協力)
  - スポーツ分野での日本文化紹介・人材育成支援(国際交流基金事業)
  - スポーツ分野での日本文化紹介(在外公館文化事業) 等
- 文部科学省
- 学校体育カリキュラム策定支援、スポーツイベントの開催支援をするため、専門家を派遣

### ② 国際スポーツ人材育成拠点の構築 →文部科学省

- スポーツ教育を行う大学院修士課程や短期プログラムへの留学生の受入

### ③ 国際的なアンチ・ドーピング推進体制の強化支援 →文部科学省

- アンチ・ドーピングが遅れている国への教育・研修パッケージの開発・導入支援等

### Sport for Tomorrowコンソーシアム (2014年8月設立)

※官民連携しオール・ジャパンでSport for Tomorrowプログラムを推進していくためのネットワーク

#### ●運営委員会:

文部科学省

外務省

JICA

国際交流基金

日本スポーツ振興センター(JSC)

日本オリンピック委員会(JOC)

日本パラリンピック委員会(JPC)

日本アンチドーピング機構(JADA)

筑波大学

2020年大会組織委員会

#### ●メンバー:(随時募集中)

国内各競技団体

NGO

大学 等

#### ●事務局:

日本スポーツ振興センター(JSC)

上記に加え、スポーツ振興の前提となる途上国の青少年の育成を草の根レベルで支援。(教育施設整備案件)→外務省